

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、  
次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成24年度第2回 高松市ユニバーサルデザイン基本指針策定懇談会
開催日時	平成24年11月28日(水) 10時00分～11時45分
開催場所	高松市上下水道局5階 大会議室
議 題	(1) 高松市ユニバーサルデザイン基本指針(素案)について (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	上杉委員, 遠藤委員, 黒川委員, 田村委員, 中島委員, 野上委員, 野口委員, 早馬委員, 平野委員, 三矢委員, 吉田委員
傍 聴 者	0人
担当課および 連絡先	政策課ユニバーサルデザイン推進室 839-2141

### 審議経過および審議結果

会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。

議事(1) 高松市ユニバーサルデザイン基本指針(素案)について  
高松市ユニバーサルデザイン基本指針(素案)について事務局より説明

#### 【主な質疑・意見等】

(中島委員)

おもてなしという言葉は、どうしてもお遍路さんというイメージが強いので、外部から来た人のみを支えると思われる可能性がある。そうではなく、それぞれの違いに気づいて、困っている人に声をかけたり、お手伝いをしたりことを含めて考えている、ということが分かるような文面の方が良いのではないかと。

(三矢委員)

高松らしさを持つてくるのであれば、従来からあるおもてなしの心を、思いやりや気配り、認めあいというところに繋げていくこともできると思うが、どうも来訪者に比重を置いたような感じを受ける。

(田村委員)

おもてなしという言葉だけをぱっと出されると、外から来た人に対して、という印象をほとんどの人が受けると思う。「より全ての人に」という意味合いで使っているのであれば、そういう言葉を付け加えていけば、高松らしさが出ていいのではないかと思う。

(黒川委員)

難しいかもしれないが、もっと現実的な、単刀直入な言い方ができないかと思う。心のユニバーサルデザインから始まるということはいいいのだが、高松らしさを出すのであれば、もっと分かりやすいものが考えられるのではないかと。

## 審議経過および審議結果

(遠藤委員)

おもてなしという言葉は、どうしても外部からの人を対象にしているように感じてしまう。

また、ユニバーサルデザインについて学習でき、体験できる環境をつくるということを謳っているのであれば、職員に対する積極的な意識啓発という部分に「教育」などの単語や、人材育成のところにある「体験」や「学習」の環境整備を進めるということの裏づけのために、市の役割としてどうするのかということを入れて欲しい。

(上杉委員)

おもてなしという言葉については、いい表現だと思うが、勘違いされるという意見もあったので、おもてなしという言葉の上に、「住む人同士で」、「住む人も」などを付けたら、もう少し解釈の仕方が広がるのではないか。

また、この基本指針はたくさんの人が見る機会が多いと思うので、具体的なイラストがあれば、誰が見ても分かりやすく、理解度が深まるのではないか。

(野上委員)

基本理念は、子どもが見ても分かることが一番だと思うので、それくらいの言葉を使って作り上げてもらえれば、小さな時からユニバーサルデザインを身近に感じることができるし、高齢者の方にも分かりやすいだろうと思う。

また、子どもに対する教育が重要なので、授業や宿題に反映するなどの関わり方をしてほしい。

(野口委員)

指針の内容について、もっと具体的で分かりやすい言葉を使ってもらいたい。

皆が認め合って、それぞれを理解しあうということが一番大事なところであるので、おもてなしという言葉が指針の中で是非使っていただきたい。

(早馬委員)

ユニバーサルデザインという言葉の意味が、特に高齢者には分かりづらい。

元々、おもてなしというものは、お遍路さんに対しての言葉だったが、もっとここに住んでいる人のためのユニバーサルデザインの考え方として前面に出すことができれば良いと思う。

(平野委員)

2ページの「指針策定の趣旨」だが、第一段落の、「様々な立場や個性を持つ人が共に暮らし、触れ合う機会が増えています。」となっているが、触れ合うというより、一緒に取り組むという姿勢がもっと伝われば良いと思う。

次の段落で、「そのため、今後は、一人一人の多様性が尊重され、年齢や障がいの有無にかかわらず」とあるが、これは今までの流れで表現しているので、不要なのではないか。

9ページの「目指すべき姿」で、国際化やグローバル化が使われているが、ユニバーサルデザインと同じく、あまり皆がはっきりしたイメージを持っていないように感じる。本当の問題は、私たちがいろいろな面で繋がっていて、共存しなくてはならない状態になってきているので、観光客や企業のグローバル化だけに限らないで、地球市民としての意識を持って生きるというイメージが出れば良いと思った。

同じページの最後の「住む人と訪れる人の両方が満足できる街を目指します」は、人は満足してもすぐ次の課題が出るため、恐らく実現不可能だと思う。「心温まるまち」とか「暮らしやすいまち」の方が良いのではないか。

もう一つ、10ページの心のユニバーサルデザインのところだが、3段落目の方が大切だと感じるので、それを上に持ってきたほうが良いのではないか。

## 審議経過および審議結果

(三矢委員)

このユニバーサルデザインについての取組を行政に続いて実施するのは事業者だと思う。人の訪問や移動に関するところ、公共交通などの事業者に関する部分については、もう少し強く働きかけてもいいのではないか。

また、教育が大切だと思うので、教育委員会などが中心になり、考えていただきたい。

さらに、実際にまちの中にはユニバーサルデザインに配慮したものがあるが、いざ使う側に回ってみると、役に立たなくなっている場合があるので、当事者に聞きながら、細かく丁寧に対応していくことが重要であると思う。

(平野委員)

東洋系、アフリカ系など人種によって、人の対応が変わってしまっているという現実があるので、せめて、市役所などでは、対応についての教育が行き渡っていればいいと思う。

(中島委員)

おもてなしには、相手を思いやる気持ちや、お互い様という気持ちなどが含まれており、とても魅力的な言葉だと思う。それが生かされる形で、しかも皆がそれぞれ違いを認め合った上で、ともにこの街を作っていく主体となるという意味を込めた枕詞を付けられればいい。

(田村委員)

17ページ(4)の情報・サービスの「ア 行政情報，行政（窓口）サービス」で、複数の手段を用いて分かりやすく提供するように努めるとあるが、聴覚障害者には音声での情報伝達が困難なので、映像など具体的な手法を入れてもらいたい。

(黒川委員)

実際にミスマッチというものは大変多いと思うので、現実にバリアとなっているものを見つけ出すことや、皆が知り得たバリアをなくすということが大切である。そのため、子どもや老人を問わず、教育、啓発するということを徹底的に行ってもらいたい。

(会長)

バリアそのものをなくすために、市民からの意見を求めることも必要だと思うが、建築物などを作る際には、市の責務として留意する必要があるのではないかな。

(野上委員)

小学生向けの啓発用冊子を作成するのであれば、単に配布するだけではなくて、短時間でもいいので、学ぶ場、考える場を作っていただきたい。

また、一番最初に来るべきものが心のユニバーサルデザインではないかと思う。「心のユニバーサルデザイン」イコール「おもてなしの心」と位置付けて、高松らしさだということであれば、これを前面に出せば良いのではないかと思った。

(平野委員)

ユニバーサルデザインは、気持ちよく過ごせるためだけではなく、皆がその中で、自分の持っている能力を生かして、そのまちづくりに参画・貢献する、そのためでもあるということを感じている。単に誰かに満足させてもらったり、住みやすくしてもらおうのではなく、自分も参画しているのだという気持ちを持つための教育が必要だと思う。

審議経過および審議結果

(会長)

やはり、ひとづくりという部分が重要になってくると思う。子どもの頃から相手を思いやる気持ちや自分だけでなく皆が気持ちよく過ごせるようにしようとする気持ちを醸成していかなければ、ユニバーサルデザインというものは育っていかない。関係する人たちすべてがそういう気持ちにならなくてはいけないのだろう。

次回懇談会では、今回いただいた意見をもとに素案をさらにまとめて修正したい。事務局には、各委員からいただいた御意見を、ぜひ素案に取り入れていただきたい。

議事(2) その他について

その他（意見募集等）について事務局より説明

【主な質疑・意見等】

特になし

—以上で審議終了—